



2019年5月

ITかおにぎりか？

公益財団法人 国際通貨研究所
名誉顧問 行天豊雄

先月、広州・香港・澳門の三つの市政府が共同してPRと投資誘致のためのシンポジウムを東京で開催した。日本側800人、中国側700人参加の盛会で賑わった。この三市は珠江口を取り囲んで東莞、惠州、深圳等中国のハイテク立国を牽引する高成長センターの集積地である。総人口七千万人超、ニューヨーク、東京、サンフランシスコと並ぶ世界有数のグレート・ベイ・エリアを誇っている。

三市代表が交々に語る明るい未来像は当然と云えば当然だが、強く印象に残ったのはこの人達がモノ、カネ、ヒト、情報というあらゆる経済要素がどんな格好であれ「動く」ということがビジネス、つまり金儲けの源泉であるときわめて率直に確信していることだった。云い換えれば、中国の経済官僚や経営者にとってすべての出発点は「変化」なのである。

何故印象に残ったのかと云えば、これに対する日本代表達のメッセージが「安定」と「継続」と「伝統」の重要性だったからである。どちらが正しいか、間違っているか、あるいはどちらが良いか悪いかという議論はそもそも何のためにビジネスをするのかから考えねばならぬから余り意味が無いだろう。ただ、日本人と中国人のビジネス感覚にはそういう違いがあるということである。

もう一つ面白かったのは、両国の若いベンチャー・ビジネスマンが経験談を披露したセッションだ。中国側のエピソードは全部がITがらみの話だった。彼等の頭の中にはそもそもビッグ・データやAIやIOT以外のものは入っていないようだ。これに対する日本代表はおにぎり屋のチェーンだった。日本産の美味しい米を使い、具に凝り、キメ細かいサービスを売りにして香港で大成功し澳門への進出を計画している。将来の夢は「おにぎりのスター・ボックス」だという。

ITとおにぎり、これも正否善悪は判らない。ただ、日本と中国はこういう風に違うという話である。

過去三十年、日本は概して云えば、変化を求めて新しい道を進むという生き方をしなかった。バブルで大失敗をし、不可抗力の天災に襲われ、何をやっても巧く行かないとなれば、下手に動くよりも旧守安定が良いということになったのだろう。問題はこの間

に中国をはじめとするアジアの諸国が「変化の魅力」に目覚めたことである。アジア太平洋全域で従来の秩序が揺らぎ、新しい力関係の形成を求める動きが始まっている。しかも、その新しい力関係の内容が昔のようにそれぞれの国の経済力、軍事力だけでなく、情報革命、ポピュリズム、地球環境保護、社会主義的平等といった多様な問題の実情や、それについての政府や有権者の対応によって影響されるという厄介なことになっている。

二十一世紀の世界でのサバイバル・ゲームは二十世紀でのそれに較べると文字通り総合的な国力での勝負になって行くだろう。どのような力を強化することが最も有効であるかを考えなければならないのだ。IT におにぎりかというのもそこで出てくる問題なのである。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへ寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2019 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>